

# 排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

A 重油焚ボイラーからガス焚ボイラーへの  
更新プロジェクト

排出削減事業者名：呉羽テック株式会社

排出削減事業共同実施者名：丸紅株式会社

その他関連事業者名：

## 1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	呉羽テック株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	本社工場
住所	滋賀県栗東市市岡 255
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	丸紅株式会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

## 2 排出削減活動の概要

### 2.1 排出削減事業の名称

A 重油焚ボイラーからガス焚ボイラーへの更新プロジェクト

### 2.2 排出削減事業の目的

A 重油焚ボイラーをガス焚ボイラーへバーナー更新する事により二酸化炭素排出量の削減を図る。

### 2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

A 重油焚ボイラーをガス焚ボイラーへバーナー更新することにより、二酸化炭素排出量の削減を図る。

### 2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

### 2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

#### 1) 排出削減事業者代表者の変更

排出削減事業者代表者が事業認証時点（平成 22 年 3 月 26 日）の取締役社長 小田 昭夫から取締役社長 斎藤 正和に変更となっております。

#### 2) プロジェクト境界内の変更

2015 年 9 月 21 日にボイラー燃焼排ガスの熱エネルギーをボイラー給水加熱へ利用するエコノマイザーを設置した。結果としてエコノマイザー設置後、4～6%の燃料(都市ガス)使用量が削減された。従って燃料消費量から計算されるボイラーの効率(EPJ)は向上したことになりベース

ライン排出量も増大することになるが、排出削減量の算定に当たってはボイラー効率を変化させずベースライン排出量も増大しないと仮定し、控えめに算定した。

### 3 排出削減活動期間

#### 3.1 プロジェクト開始日

2009年 6月 1日

#### 3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年 4月 1日 ～ 2017年 5月 31日

### 4 温室効果ガス排出削減量

#### 4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

#### 4.2 活動量

##### 4.2.1 活動量・原単位

なし。

##### 4.2.2 活動量の採用根拠

活動量は採用しない。

#### 4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは、燃料供給設備（重油タンク、ガスメーター）、ボイラー、及びその蒸気使用設備である。

## 5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更 ある場合、) 変更理由
$F_{\text{fuel},Pj}$	事業実施後（燃料転換後）燃料の使用量	千 m <sup>3</sup> N	2013 年度：1,066.431 2014 年度：1,055.600 2015 年度：973.351 2016 年度：939.189 2017 年度：120.156	燃料供給会社からの請求書とボイラガスメーターを元に算定	
$HV_{\text{fuel},Pj}$	事業実施後（燃料転換後）燃料の単位発熱量	GJ/千 m <sup>3</sup> N	2013 年度：44 2014 年度：46.4 2015 年度～ 2017 年度：46	デフォルト値（高位発熱量）	
$\varepsilon_{Pj}$	事業実施後（燃料転換後）ボイラー効率	%	80	カタログ値をもとに算定（高位発熱量基準）	
$\varepsilon_{BL}$	事業実施前（燃料転換前）ボイラー効率	%	81	カタログ値をもとに算定(高位発熱量基準)	
$CF_{\text{fuel},BL}$	事業実施前（燃料転換前）燃料の単位発熱量あたりの排出係数	tCO <sub>2</sub> /GJ	2013 年度～ 2017 年度：0.0708	デフォルト値を使用	
$CF_{\text{fuel},Pj}$	事業実施後（燃料転換後）燃料の単位発熱量あたりの排出係数	tCO <sub>2</sub> /GJ	2013 年度～ 2014 年度：0.0517 2015 年度～ 2017 年度：0.0521	デフォルト値を使用	

## 6 排出削減量の計算

### 6.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	1,066.431	44	0.0517	2,425.9
2014 年度	1,055.600	46.4	0.0517	2,532.3
2015 年度	973.351	46	0.0521	2,332.7
2016 年度	939.189	46	0.0521	2,250.9
2017 年度	120.156	46	0.0521	288.0
	千 m <sup>3</sup> N	GJ/m <sup>3</sup> N	tCO <sub>2</sub> /GJ	tCO <sub>2</sub>
EM <sub>PJ</sub>				9,829.8

### 6.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	46,343.7		0.0708	3,281.1
2014 年度	48,375.2		0.0708	3,425.0
2015 年度	44,221.4		0.0708	3,130.9
2016 年度	42,669.3		0.0708	3,021.0
2017 年度	5,458.9		0.0708	386.5
	GJ/年		tCO <sub>2</sub> /GJ	tCO <sub>2</sub>
EM <sub>BL</sub>				13,244.5

### 6.3 リークエージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	0			0
2014 年度	0			0
2015 年度	0			0
2016 年度	0			0
2017 年度	0			0
LE				0

### 6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM <sub>BL</sub>	13,244.5
事業実施後排出量 (7.1)	EM <sub>PJ</sub>	9,829.8

リーケージ排出量 (7.3)	<i>LE</i>	0
温室効果ガス排出削減量	<i>ER</i>	3,414

## 7 省エネルギー量

原油換算 (kl)		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン-実績 (①-②)
4,826.4	4,886.7	-60.3

省エネルギー量 = -60.3 kl (原油換算)

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。

## 9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (2013年 4月 1日 ~ 2017年 5月 31日)			
		エネルギー使用量 (実績)	熱量換算 (GJ) (実績)	原油換算(kl) (実績)
	単位			